

## ■ハング競技委員会議事録

### ◆日時

2013年10月11日(金)10:00-15:00

### ◆場所

足尾ショップ

### ◆参加者

板垣(委員長)、北野、鈴木、内田、牟田園

※松村は欠席

### ◆議事録

牟田園

### ◆議題

#### 1.前回の持ち帰り事項

##### 1.1.共通

- ・世界選手権の選考方法について、10月21日(日)までに投票する  
⇒世界選手権のルール変更は次年度になるので、来年度に議題を持ち越す。
- ・10月14日(日)までに2013年度世界選手権出場選手を選考する  
⇒選考済み。

##### 1.2.板垣

- ・世界選手権のチームリーダー派遣に予算をつけてもらえるようJHFに依頼する  
⇒委員長会議で提案したが却下された。今後の検討課題として据え置く。
- ・リパックの期日について、安全性委員会・パラ競技委員会・検定委員会に問い合わせる  
⇒継続して検討中。

##### 1.3.北野

- ・10月末のエントリー確定をもって、女子世界選手権の予算を2013年度世界選手権に繰り越してもらえるようJHFに申請する  
⇒満額ではないが部分的に予算を獲得することができた。
- ・世界選手権の必要経費を算出してJHFに申請する  
⇒対応済み。
- ・競技規定に記載の名称(デパーチャーオープンなど)を世界基準の表現に統一する  
⇒来期の課題。
- ・2013年度世界選手権に出場可能性がある選手に参加の意思を確認する  
⇒対応済み。

##### 1.4.内田

- ・過去のシリーズ登録状況を4月中に整理して、今後の対応の検討資料にする  
⇒牟田園に担当者が変わったが進捗なし。
- ・2010年度に実施した選手の意識調査について調査した結果を競技委員にメールで展開する  
⇒急いで送る。

##### 1.5.鈴木

- ・ポイントラリーをハングシリーズに展開できないか検討する  
⇒アジア選手権の対応を優先させるため優先順位を下げる。
- ・Nominal Goalを30%に変更したときの影響を確認する  
⇒継続課題。

##### 1.5.牟田園

- ・ポイント大会のカテゴリ2申請を推奨する旨を文書化し、主催者側にも告知する  
⇒継続課題。
- ・大会主催者に対して、大会申請に必要なものをHPに明示し、告知する  
⇒継続課題。
- ・規則を改定しホームページに掲載、選手に告知する  
⇒対応済み。

#### 2.ルールブック改定

##### ●ヒート制

- 1大会の採用本数上限  
⇒ヒート制の趣旨に沿っているので変更なし。
- 日本選手権係数  
⇒1000点満点のルールと整合性がとれないため、ヒート制では日本選手権係数を廃止する。  
世界選手権選考ポイントは現状のまま日本選手権係数を継続して採用する。

##### ●DQ0.4の日が4日だと、日本選手権としては成立するけど、HGシリーズ戦としては成立しない

⇒日本選手権の成立条件として、HGシリーズ成立条件を含むことをルールに追加する。

##### ●タスクコミッティーは事前に通知すべき!

⇒以下の文言をルールに追加する。  
「大会主催者が選手に対して事前に打診することを推奨する」

##### ●400m以外のシリンダー半径を許可するか否か

⇒以下の文言にルールを修正する。  
シリンダーの半径は400mを推奨する。

##### ●コミッティーセットアップゾーンの徹底

⇒優遇されるゾーンの範囲を広げるように大会主催者に伝える。

- シリーズ登録費を毎大会500円ずつ徴収して、シリーズ登録を必須化させる  
メリット・デメリットの比較
  - メリット
    - 全員登録できる
    - シリーズ登録担当者の負担が減る
    - シリーズ登録が楽になる
  - デメリット
    - 大会主催者と競技委員会でお金のやりとりが発生する
    - 大会エントリー費が値上がりする印象を与える
    - 大会開催数が減ると収入が減る可能性がある
  - 結論
    - シリーズ登録費を毎大会500円ずつ徴収する。シリーズ登録費はエントリー費に含める。
    - 大会主催者がシリーズ登録費を集約して、大会終了後にJHFに送付する。
  - 今後の取り組み
    - 牟田園がJHF事務局にお金の流れを確認する
    - 大会主催者への告知
    - ルールブックにルール変更を記載する

### 3.その他

#### 3.1.ライブトラッキング

－JHFから予算を獲得するために足尾の大会でテスト運用して実績を作る

#### 3.2.大会保険の案内整備

－JHF事務局とのやりとりを文書化して告知します

#### 3.3.デジタル無線の統一化

- －JHFが保有しているデジタル無線機は25台、スカイレジャー無線機は200個ほど保有している
- －経年劣化、電波使用料の問題があるので移行期間を設けて特定の時期から切り替えることをルール化したい
- －2015年度の大会からデジタル無線機の保有を参加条件とする
- －2014年度は移行期間としてデジタル無線機への移行を選手に促す
- －パイロットに対してはJHFレポートで告知する。文章は北野が作成する

### 4.持ち帰り事項

#### 板垣

・大会結果報告書のフォーマットを更新する

#### 北野

- ・競技規定に記載の名称(デパーチャーオープンなど)を世界基準の表現に統一する
- ・デジタル無線機への移行についてのルール変更の文書を作成しJHFレポートに載せてもらう

#### 牟田園

- ・過去のシリーズ登録状況を今年度中に整理して、今後の対応の検討資料にする
- ・ポイント大会のカテゴリー2申請を推奨する旨を文書化し、主催者側にも告知する
- ・大会主催者に対して、大会申請に必要なものをHPに明示し、告知する
- ・シリーズ登録費の徴収方法を変更することに関して、JHF事務局にお金の流れを問い合わせる  
大会主催者にもルール変更を周知する。
- ・鈴木が作成したインドネシア視察報告書を確認して競技委員会に掲載する

#### 鈴木

・Nominal Goalを30%に変更したときの影響を確認する

#### 内田

- ・2010年度に実施した選手の意識調査について調査した結果を競技委員にメールで展開する
- ・前回の競技委員会の議事録を全体に送付する